

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第七中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 漢字や語彙など基礎・基本となる事柄の指導を継続的に行い、「読むこと」や「書くこと」に活用できている。

授業では昨年度より引き続き、グループワークなどの言語活動を積極的に取り入れたことに加え、タブレットで意見交換のアプリ等を活用することで自己の意見を述べ、他者の意見を聞き取る経験を多く積んでいる。このことで、自己の考えをより多角的に深めることができている。

(2) 課題

- どの項目も目標値を上回った。とくに1・2学年では「思考・判断・表現」が、3学年では「知識・技能」が目標値を大きく上回る結果となった。一方、1学年では「知識・技能」が、2学年では「主体的に学習に取り組む態度」に関しては目標値との差が小さく、改善の余地があると考えられる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	総合 △ 知識・技能 ≍ 思考・判断・表現 △ 主体的 △	/	/
第2学年	総合 △ 知識・技能 ≍ 思考・判断・表現 △ 主体的 ≍	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的 △	/
第3学年	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的 △	総合 ≍ 知識・技能 ≍ 思考・判断・表現 ≍ 主体的 ≍	総合 △ 知識・技能 △ 思考・判断・表現 △ 主体的 △

(2) 分析（観点別）

第1学年	3観点のすべてにおいて目標値を上回る。
第2学年	3観点のすべてにおいて目標値を上回る。
第3学年	3観点のすべてにおいて目標値を上回る。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
毎授業で漢字学習に取り組む、定期的に小テストを行う	「話すこと・聞くこと」では目的や場面に応じ、自分の考	4人グループによる学び合いの活動やタブレットの活

<p>ことで知識の定着を図る。また、文法事項では基礎的な知識を定着させ、文章等の中で使えるように指導していく。情報の扱い方については、原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解させることを指導していく。</p>	<p>えを伝えられるよう言語活動に取り組む。「書くこと」では、根拠を明確にししながら自分の考えが伝わる文章になるよう指導していく。「読むこと」で文の要旨を把握出来るよう文の中心的部分に注目するよう指導したい。</p>	<p>用を行い、相手の意見を取り入れ自分の考えを深めようとする態度を養いたい。また、学習の振り返りを行い、学習した語句や表現を使用する機会を設け、学んだことを次の学習に活かそうとする態度の育成に努めたい。</p>
---	--	--

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>漢字の読み書きについては、帯活動として漢字学習を実施する。また、文法事項では練習問題等を通じ、基礎的な知識を定着させ、文章等の中で使えるように指導していく。情報の扱い方については、原因と結果、意見と根拠など情報と情報の関係について理解させることを指導していく。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」では話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較できるよう指導する。「書くこと」では、書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げるよう指導していく。「読むこと」では文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめられるよう指導していく。</p>	<p>4人グループによる学び合いの活動やタブレットの活用を積極的に行い、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、自己の考えを深めようとする態度を養っていく。また、読書が知識や情報、自分の考えを広げるのに役立つことを理解させ、自ら語感を磨く態度を身につけさせる。</p>

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>文法事項、古文・漢文に関する基礎知識の定着には、個人差がある。また、類義語や対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句など、語句に関する感性、表現力を磨くことには、改善の余地がある。文章読解や小テストの中で、基礎基本の定着を目指す。また、作文の中で使うことを通して、語感を磨かせていく。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」では、資料を用いて、自分の考えを相手に正確に伝えること、根拠の適切さや論理展開を意識した話し合い活動を重視していく。「書くこと」では、根拠の適切さを考え、自分の文章が相手に伝わるよう構成を工夫するよう指導していく。「読むこと」では文章の構成や論理の展開、表現の仕方について意識して読むように指導していく。</p>	<p>三観点の中で最も正答率が低い。個→集団→個という形で、自分の思いや考えを積極的に表現し、授業でお互いに関わっていく中で思いや考えを深め、再度自己で検討することで、理解の深まり、広がりを見込めるようにしていく。単元の振り返りを行い、学んだことを次の学習に活かす取り組み態度の育成に努める。</p>